たのしいサイエンス通信
2019.03.14
34

花はなぜ春に咲くのか

3 月も半ばに差し掛かり，まだ肌寒さは残りますが，暖かい日も増えてきました。もう春ですね。春といえば様々な植物が花を咲かせる季節，というイメージがあります。日本に住む私たちには当たり前の感覚かもしれませんが，そもそも花はなぜ春に咲くのでしょうか？　暖かくなるから？　それだけでは説明しきれていない気もします。今回は「花はなぜ春に咲くのか」に注目してみました。

図 1　春の代表的な花　サクラ

春に花を咲かせる植物はたくさんありますが，それらが何によって「春」を感知するかは様々です。その中でも代表的な 2 つの要因が，「暖かくなること」と「昼の長さが長くなること」です。植物の中には暖かさや日の長さを感知するしくみをもったものがあり，これらによって季節を知っているわけです。ヒトと同じですね。ヒトも気温や日の長さで季節を感じます。

今回はこのしくみには深く触れません。というのも，これはあくまでも「春に花を咲かせるためのしくみ」であり，「なぜそのようなしくみをつかってまで春に花を咲かせるのか」という疑問の答えにはなっていないためです。

そもそも，植物はなぜ花を咲かせるのでしょうか。植物にとって，花は子孫を残すための生殖器官です。おしべでつくった花粉を，めしべに運んで受粉させる，そのために花は存在します。ですが，この受粉の過程は，（ほとんどの）植物は自分で行うことができません。そこで重要になってくるのが花粉を運んでくれる存在。多くの場合は**ハチなどの昆虫**がこの役割を担っています。この昆虫の活動が，なぜ花が春に咲くのか，を考えるうえでのポイントになってきます。

昆虫の活動が活発になるのは，暖かくなってくる春ですね。前述のとおり，植物は昆虫に花粉を運んでもらわないといけません。つまり春に花を咲かせるのは，**昆虫がたくさん活動する時期に合わせているから**，なんですね。（厳密には，そのような植物が長い時間をかけて生き残ってきた，ということです。）
そのほかにも植物はいろいろな工夫をしています。花の色を鮮やかにしたり，昆虫を引き付けるにおいを出したり，甘くておいしい蜜をつくったり…中には「確実に同じ種類の花」に花粉を運んでもらうために，特殊な形に進化した花もあります。一方で，昆虫も植物に対応するように進化してきました。このように，「花粉を運ぶ昆虫」と「花」には密接な関係があるのです。

ちなみに，私たちが普段「花」とよんでいるものは，ほとんどが「被子植物の花」です。今回のサイエンス通信も被子植物の花について記述しています。被子植物と同じ種子植物のなかまである「裸子植物」にも，花はあります。あまり見たことはないかもしれませんが，この裸子植物の花に悩まされている人は実はたくさんいるはず。裸子植物は被子植物と違い，**風で花粉を運ぶ**ものが多いのです。

…花粉症の人は今もつらい思いをしているかもしれませんね。裸子植物も，風でできるだけ遠くまで花粉を運ぶためにいろいろな工夫をしているので，気になる人や花粉症の人は調べてみてください。その工夫に感心することになるかもしれませんし，より花粉のことが憎くなるかもしれません。（早）

参考：花はなぜ美しいか　1. 昆虫と受粉　内海俊策
https://ci.nii.ac.jp/els/contentscinii_20190313115352.pdf?id=ART0007341078